

【左京区叡麓地区保護司会・社会を明るくする運動研修会】

女の子たちのいま～支援の現場から

日時：令和3年7月22日（木） 18：00～19：40

場所：京都市立上高野小学校ふれあいサロン

主催：叡麓地区保護司会、上高野地区更生保護女性会、一般社団法人京都わかさねっと
左京まちづくり活動支援交付金事業

参加者：保護司3名、更生保護女性会10名、上高野社会福祉協議会2名、少年補導1名

内容：講演 18：00～19：00

昨年は中止だった研修会。今年は、左京区まちづくり活動事業として共催し、左京区内の人たち広く周知しました。講師は、保護司の宮江真矢さん。大学、検察庁、小学校、また地域の保護司として、こどもから老人まで、さまざまな場面での関わりを通して感じておられることを話していただきました。

宮江さんは、検察庁や保護司活動を通して、犯罪をした人たちと接する機会が多く、そのなかで愛されずに育ったことが大人になって影響していると感じられるとのこと。しかしながら、その大切な子育ての部分が、いまコロナ禍で、保護者の心身状態が困難になっており、こどもたちの衣食住が担保されていない状況が続いているとのこと。

このような中で、いま地域に必要なのは、居場所、シェルター、相談。生きづらさの出口が見えない状況の中で地域がどう親子に関わるかが鍵になるとのこと。地域のなかで、孤立している親子に対して、「それは本当に家庭内の問題ですか。私たちは本当に悪くないのですか。排除の連鎖を止めませんか。」

熱く語る宮江さんの言葉が心に刺さりました。

グループワーク 19：00～19：40

講演のあとは、保護司が中心になって3班に分かれて話し合いをし、それらを発表しました。「普段は聞けない話だった。自分自身に偏見があることがわかった。」「差別意識は誰もがもっている。それを心掛けて生活をしたい」。そのような意見が伺えました。今日の研修で、まちが少し優しくなったような気がしました。



左京区まちづくり活動
支援交付金

女の子たちのいま

支援の現場から

令和3年7月22日（木）
18：00～19：40

場所：京都市立上高野小学校
ふれあいサロン

講師：宮江真矢氏
コソキータ：北川美里

コロナウイルスの流行は、社会的にも不安定かつ流動的な立場にある女性を必要とする場面に追いやり、難関や難問、過剰な負担を押し、望まない妊娠や産後女性の自傷的な感情が社会問題になっていきます。孤立化がますます進むなか、いままち地域の暮らしが支えられつつあります。

講演では、京都市内初歩子ども事業のメンバーとして、広域圏の女子矯正施設や受刑施設を調査された宮江真矢氏を招き、少女たちが抱える課題を話し、また、宮江氏、左京区内での事業を支援する方、保護士と一緒に、すべての人々が安心して暮らす社会について考えてみたいと思います。

※当日は無料です。但し、講師の謝儀は別途必要です。
お問い合わせ先：左京区保護司会 075-861-1111
左京区まちづくり活動支援交付金事業 075-861-1111

主催：左京区保護司会叡麓地区
（宮江、藤井、北川）
左京区地区更生保護女性会
一般社団法人京都わかさねっと
令和3年度社会明るくする運動